

## 第20回 RIDCマンスリー研究セミナー

## 漢代画像石の画題と意義

## スピーカー

岡山大学文明動態学研究所 准教授

岩崎 志保

## 日時

2023年2月15日(水)

12:00~13:00

## 場所

オンライン開催



古代中国で平板な石材にさまざまな画像・文様を彫り、主として墓の装飾に使用されたものを「画像石」と呼ぶ。こうした画像石を装飾に用いる漢代の墓「画像石墓」には当時の死生観が反映される。複数の墓室をしつらえ、豪華な品を副葬した墓を造営するといった「厚葬」の風習が認められる。

画像石墓は前漢後期～後漢末(紀元前1世紀～紀元後3世紀初め)に流行する。分布には地域的まとまりがあり、地域ごとに彫刻技法や画題内容に特徴を持つ。画題は、墓主の生前の身分や生活のほか、神仙・神話・歴史故事など多岐にわたり、当時の生活文化を伝える絵画資料である。本来は墓の構築材であり、それを踏まえることで歴史資料として意義付けられる。

画像石は美術品として注目され、日本にも多数持ち込まれている。日本にある資料を紹介し、その来歴を考える。

お申し込み先

<https://forms.gle/5Loqt88rtXLvGWwBA>

お申し込み締め切り

2月14日 12:00

お問い合わせ先

文明動態学研究所 ridc@okayama-u.ac.jp



\*オンライン開催のため、ご参加希望の方は事前申し込みをお願いします。折り返し、参加用URLをお送りします。